



## 信・望・愛の精神のもとに

東寺尾から「信・望・愛」の精神を持った優秀な人材を数多く輩出し続けている同校。65年以上続くその歴史を追った。

太平洋戦争の終結から混乱をきたし、荒廃と復興が入り乱れていた昭和の日本。その日本に拠り所が必要であるとの考えから、ニューヨークに本部を持つアトメント・フランシスコ会から布教と調査のために、神父が来日した。

そのうちの一人が初代校長である勝野巖神父。布教活動が軌道に乗り始める中で「長い間の戦争で人々の心の荒廃は酷く、特に子どもたちをこのままにしておくわけにはいかない」との思いがつのり、学校設立への活動に変わっていった。

校舎設立のため、鶴見区内の土地を探し回り、



### ヨゼフ学園の歴史トピックス

- 1951年 教会及び司祭館 落成
- 1952年 教会前の人参畑を切り開いて校舎建築に着手。「鶴見聖ヨゼフ小学校」として開校。
- 1957年 中学校設置認可、入学式「聖ヨゼフ学園小学校」に改称
- 1959年 高等学校設置認可
- 1963年 校歌制定
- 1965年 初の聖ヨゼフ学園祭
- 1978年 勝野巖校長に叙勲
- 1983年 新校舎落成
- 2002年 勝野巖学園長 帰天 勝野 巖 学園長
- 2018年 小学校が国際バカロレアPYP校に認定
- 2020年 中学・高等学校が共学化



1951年に完成した教会

1951年に教会が、その次の年に校舎が落成。初めての小学校入学式には、男女併せて50人の児童が出席した。初めは1・2階建て、4教室だけの校舎だった。57年には中学校が、59



勝野校長による授業

年には高校も開かれた。情操教育の一環として生け花や歌舞伎の教室もこの頃から始まった。78年には、勝野校長が長年私学振興に尽くした功績が評価され、叙勲を受ける。その後、ホームステイプログラムやクラブ活動が始まり、生徒数も増加。現在では22教室、385人が学んでいる。

### 国際化を進める

2018年には日本の小学校としては初めてとなる「国際バカロレアPYP校」に認定された。

## 先人の思いを継ぎ、飛躍していく学校

勝野学園長は、創立10周年時、「善い人間を造りたい。正直な、勤勉な、謙遜な、従順な、正義感

国際バカロレアとは、国際バカロレア機構が提供する教育プログラム。多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い平和な世界を築くことに貢献する探究心、知識思いやりに富んだ若者の育成が目的。

具体的には教えられるのではなく、自分たちで社会の問題を見つけ、解決していく「探究」という授業が導入される。現在の小学校校長である荒屋勝寿校長は「社会は刻々と変化している。将来予想がつかない社会の中で、様々な課題や問題に直面しても自分で解決していくことが求められる」と話す。

2020年には、多様な価値観を認め合い、グローバルな社会に対応するための取組として創立以来、女子学校だった中学・高等学校も共学化する決断がなされている。

### 校歌

「み教えの道を、日ごと歩まん  
清き心もて、日々を学ばん  
真理なるみ神を信じ  
栄えの日まで、友よもろともに  
二、み誓いの幸に、日ごと進まん  
直き心もて、日々を励まん  
永遠の生命を望み  
栄えの日まで、友よもろともに  
三、聖心の愛に、日ごと生きなん  
明き心もて、日々を和まん  
人の世に灯となり  
栄えの日まで、友よもろともに



高田 房枝さん 8回生

小学1年生からカトリックの授業がありました。当時は正直、どうして学ぶのかという疑問を持ちながらでした。しかし、カトリックの学びは、社会や文化、歴史、化学、何を学ぶにも必要で、大人になって、体の中に自然と入っていたことはとても有難かったです。高校時代、化学部で先生の大学の合宿に参加し、実際に山や自然の中で研究したことは今の活動につながっています。少し厳しすぎるのではと感じていた校則も、今になってみると社会で生きていく上で大切なことを学び、本当に良かったと思います。

### Profile

国道1号線の緑化活動を行う「鶴見[みどりのルート1]をつくる会」の発起人で会長として活躍。(公財)都市緑化機構の「緑の都市賞」で最優秀に輝く。

### ヨゼフから羽ばたいた卒業生が語る

## 魅力

ヨゼフに小学1年生から12年間通った3人に話を聞きました



学生時代はやんちゃで、先生から怒られることも多かったけれど、学校は居心地が良く、熱が出て来ていたほどでした。今でも覚えているバレーボール部の顧問の先生。怖かったけれど、言い訳をしないことや、人のせいにしないということを教えてもらいました。ヨゼフでは、人に親切にすることと同時に、我慢するばかりではなく、自分の個性も大切にすることを教えてくれます。今でも「この人の良い所はどこか」と探しながら人付き合いができるのはヨゼフに通っていたからだと思います。同級生とは、いまだに本当に仲良きさせてもらっており、子どもを連れてお泊り会などしています。

### Profile

聖ヨゼフ学園父母の会の会長。バザーやヨゼフ祭など、イベントを中心にまとめる。中1と小3の子どもは二人とも同校に通う。夫は小学校の同級生。



村野 亜希子さん 30回生



学生時代から化学に関心



水谷 有里さん 44回生

体育祭などイベントが大好きだった



小学1年生から英語の授業があり、ネイティブの先生が普通にいたからか外国に対する恐怖心は全くなかったです。少人数制だから先生との距離も近く、アットホームな雰囲気、プライベートの話をすることも多々ありました。心に残っていることは、ミサの中で聞いたタラントンの例え話。そこで学んだ「神様からの贈りものである自分の才能を輝かせる」という教えは今にも生きており、授業中は児童たち一人ひとりの個性や才能を伸ばすことを大切にしています。

### Profile

教育機関で働いていたが、恩師の縁で同校の小学校英語教師として働き始めて5年。現在妊娠中で、出産予定の男の子は同校へ入れたいと思っている。